



我が国では、観光を、成長戦略と地方創生の切り札に、訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とする目標を掲げ取組を進めています。その結果、2018年の訪日外国人旅行者数は過去最高の3,119万人となりました。

青森県においても、2018年の延べ宿泊者数が503万人泊、うち外国人延べ宿泊者数が38万人泊と、いずれも過去最高を更新しています。

私たちのふるさと青森県は、世界に誇れる四季折々の多彩な魅力に恵まれ、近年、国内外の観光客で賑わいを見せてますが、古に思いをはせると、約1万5千年前に始まった縄文文化のふるさとでもあります。

縄文人は、自然への敬意を持ち続け、気候や環境の変動を乗り越え、1万年以上もの長い年月、自然と共生し、世界に例のない持続可能な社会を築きました。縄文文化は、日本文化の基層をなすものであり、「Jomon」のふるさと青森県は、日本の真髄を知る上で訪ねるべき‘Roots of Japan’であると確信しています。

今、青森県は、人口減少や高齢化の進行、グローバル経済の進展など、社会環境が大きく変化する中、本県の「生業(なりわい)」と「生活」が一体となって価値を創出し、「地域で経済が回る」持続可能な社会の実現を目指して挑戦するステージに立っています。

そこにおいて観光は、基幹産業となって地域経済をけん引する役割を担っていますが、私たちが世界に向けて示すべきは、この地で「暮らす人」が地域の資源を大切にして誇りを持って磨き上げ、「訪れる人」がその魅力を満喫することによって幸せを感じ、そのことが、地域で「働く人」の生業を創出し、「暮らす人」の幸せとなり、地域にさらなる交流を呼び込むという、「人」も「地域」も幸せになる姿です。

Happy・Happy 人と地域の幸せが好循環する持続可能な社会を、みんなの力でつくっていきましょう。

青森県観光国際戦略推進本部
本部長 青森県知事

三 村 伸 吾



青森県観光国際戦略推進本部
事務局 青森県観光国際戦略局観光企画課
〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号
TEL 017-722-1111(代表)

青森県観光戦略

HAPPY・HAPPY

人と地域の幸せの好循環

—概略版—



2019年3月

青森県観光国際戦略推進本部

1 戦略策定の基本的な考え方

～多彩な地域資源を生かした交流人口の拡大～

四季折々の美しい自然や情緒溢れる温泉地、多種多様で高品質な農林水産品、地域に根差した生活・文化など、本県の多彩で奥深い魅力を生かして、人の流れを生み出していくことが観光の大きな役割です。

～地域をけん引する基幹産業への成長～

観光産業は、旅行・宿泊・交通はもとより、農林水産業、商工業など、様々な分野と関連する総合産業であり、今後、本県の基幹産業として成長させていくことがより重要となります。

～「経済を回す」～

地域経済の活性化と地域活力の維持・向上を図るために、「経済を回す」仕組みづくりが重要となります。

国内外からの交流人口を拡大し、更なる外貨の獲得を図るとともに、観光産業を基幹産業として成長させ、多様な雇用と観光で稼ぐ人財を生み出していく必要があります。

～世界から「選ばれる青森」～

多彩な地域資源を生かし成長する観光は、本県の強みであり、「経済を回す」取組のけん引役としての更なる成長に大きな期待が寄せられています。

幅広い分野での連携・協働を推進し、旅の目的地として世界から「選ばれる青森」となることをめざします。

4 基本的な方向性「滞在の量と質」

本県を代表する地域資源のブランド力や食の魅力、四季折々の強みを生かすとともに、各地域の多彩で豊富な地域資源の魅力を活用し、観光需要の更なる獲得に取り組んでいく必要があります。

また、「県内総時間」を拡大していく量的な視点とともに、滞在中の活動の高度化や深化、観光と物産を連動させた相乗効果などによる消費効果の拡大の視点も持ち、県内で過ごす「滞在の質」を高めていく取組が重要となります。

本戦略では、「量」の増加と「質」の向上の双方に、主に次の視点から取り組んでいきます。

旅行行動を捉えた旅の好循環の創出

「タビナカ」の自慢したくなるような体験が、「タビアト」での知人等との本県の魅力の共有や情報の拡散、興味・関心の喚起へつながり、「また行きたい」、「行ってみたい」という新たな「タビマエ」への好循環を生み出すような取組を推進していきます。

もう一つの立体観光「3D観光」

地域の魅力を「質の高さ」、「奥行きの深さ」、「多彩・豊富さ」の3次元の軸で立体的に捉え、その強みや特性を最大限に生かしていく「3D観光」の確立に取り組んでいきます。

四季折々の魅力等を生かした特別な体験、地域の魅力を支える人との交流等の地域とのつながりを感じるようより深い体験など、多様なニーズに応えることができるバラエティに富んだ本県ならではの観光コンテンツ開発を推進していきます。

※3D観光(Three Dimensional Tourism)

本県では、鉄道、フェリー、航空など陸・海・空の交通網を組み合わせた旅行形態である「立体観光」を提倡し、これを「青函周遊観光」という実際の旅の形として確立させました。

「3D観光」は、地域の魅力を「Height(高さ)」「Depth(深さ)」「Width(幅)」の3次元の軸で立体的に捉え、観光客の多様なニーズに応じていくものであり、これまでの交通網の組み合わせによる旅行形態の定着とともに、もう一つの立体観光として、更なる観光コンテンツの開発・磨き上げに取り組むものです。

2 本県観光の現状と課題

～観光を取り巻く状況～

- 人口減少と高齢化の進行
- ICTの進展が観光客の意識や行動、観光産業の生産性やサービス水準の向上にも影響
- 北海道新幹線の札幌延伸など交通ネットワークの充実
- 国内市場の縮小と地域間競争の激化
- 更なるインバウンド需要の期待
- 「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの進展
- 国における観光産業を基幹産業へと成長させていく取組の推進、観光立国の推進

～本県観光の現状(2017)～

- 延べ宿泊者数
462万人泊(全国34位、東北5位)
- 外国人延べ宿泊者数
26万人泊(全国34位、東北2位)

～本県観光の課題～

- 観光地経営の推進と観光産業の競争力の強化
- 良質な観光コンテンツ開発と戦略的情報発信
- 繰り返し訪れたくなる受入環境の整備
- エリア別の国内誘客の強化
- 国・地域別の海外からの誘客の強化

3 将来ビジョン(10年後のめざす姿)・数値目標

本県が世界から選ばれ、観光産業が基幹産業となり地域経済をけん引する原動力となっている状態
「訪れる人」、「働く人」、「地域の人」が幸せを感じる地域

「投資を呼び込む」基幹産業への成長

観光産業が投資する価値があるものと評価される基幹産業に成長し、幅広い分野において、魅力ある「生業」と観光で稼ぐ「人財」を生み出し、「経済を回す」原動力となることをめざします。

幸せを共に感じることができる地域の形成

「訪れる人」、「働く人」、「地域の人」がそれぞれに本県の価値を高く評価し、幸せを共に感じることができるように地域の形成をめざします。

世界から「選ばれる青森」

観光産業を地域経済の柱となる基幹産業として成長させ、国内外に誇れる魅力を備えた「世界の中の青森」となることをめざします。



4 戦略プロジェクト

戦略プロジェクト1 ▶ 競争力の高い魅力ある観光地域の形成と観光産業の基幹産業化

日本版DMO等の地域ネットワークが形成・育成され、多様な関係者が連携・協働した取組が進み、環境変化にも順応しながら冬季誘客等の課題を解決し、観光産業が経営と雇用の安定、収益性の向上等の好循環を生み出す競争力の高い基幹産業となり、「経済を回す」原動力となることをめざします。

戦略プロジェクト2 ▶ 戰略的な観光コンテンツ開発と情報発信

多彩な地域資源の観光コンテンツへの磨き上げやその魅力を生かした本県ならではの旅行商品の造成が進み、国内外の多くの観光客から本県観光の価値が高く評価され、訪れるべき魅力的な観光地として広く知られていることをめざします。

戦略プロジェクト4 ▶ 国内誘客の強化・推進

国内の魅力的な観光地として幅広い層の人々に本県が認知されるとともに、県内周遊や北海道・東北各県とのより広域的な周遊が活発となり、各地域から多くの観光客が訪れ、交流人口が拡大し、地域に経済効果が現れていることをめざします。

戦略プロジェクト5 ▶ 海外からの誘客の強化・推進

日本の魅力的な観光地として多くの国・地域の人々に本県が認知され、海外との交流が活発となり、国際定期便の就航やチャーター便の運航、クルーズ船の寄港も増加し、日本の北のゲートウェイとして、東アジアを中心に、東南アジア、更には欧米豪と、世界から多くの観光客が訪れ、交流人口が拡大していることをめざします。

戦略プロジェクト3 ▶ 旅行行動に応じた受入環境の整備

観光関連施設等におけるサービス水準の向上やICT等を活用した利便性の向上などにより、快適、安全・安心な受入環境が整備され、国内外の観光客がストレスなく本県観光を楽しみ、満足していることをめざします。

